

運 輸, 通 信

鉄道による輸送状況は、国鉄、私鉄ともに年々その輸送量を増し、33年中の輸送人員では（国鉄は千葉鉄道管理局管内と常磐線の県内各駅扱分、私鉄は県内各駅の合計）3億人に達した。またそのうちの65%は定期券による通勤者である。県内国鉄各駅における乗車人員では船橋駅を筆頭に千葉、市川、本八幡の順となり、いずれも県西部の都市となつている。貨物輸送量は近年増加の傾向にあつたが、32年に比しやや下廻つた。

次に自動車数は昭和26年に8900台であつたが34年には5.6倍の急速な増加率をみせた。なかでも特に小型自動車が急増している。また貨物自動車は約半数を占め、鉄道輸送に変わる程の輸送力を発揮している。一方旅客自動車の中でも、バスによる輸送は路線の拡張や車の増強で、昭和33年には11480万人を数え近距離に便利な自動車の利用は益々増加するものと思われる。

次に通信関係では郵便局336、電報、電話取扱局345がある。昭和33年中に引受けた普通通常郵便物数は56百万通で、県民一人当たり24.8通の割合である。また、国内電報は460万通を数えた。

電話は時代の要求とともに加入者数も近年急激な増加を示し、昭和28年に比較すると84.9%の増加率となつた。又県内主要都市の電話は自動化されつつある。